

みんながつながる 地域学校協働活動便り

NO.20

青森県教育庁生涯学習課地域連携推進グループ 統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員 工藤 知久子
TEL: 017-734-9890 E-mail: chikuko_kudo@mx.pref.aomori.jp



6/9 県立弘前第二養護学校

最初に学校経営方針と児童生徒の状況等の説明がありました。前年度の学校運営協議会で熟議されたことを校内の教育活動の改善に着実に繋げており、協議では、委員から様々な意見や質問が出されました。



7/22 県立弘前高等学校

弘高ねぶた制作を見学しました。熟議では、高校教育改革をさらに進めるため、学校の特色化・魅力化をどのように進めていくかについて、委員によるデータ分析を元にしながら協議が行われました。



8/4 県立大湊高等学校

令和9年度から下北地区統合校が開校することに伴い、大湊高校としても生徒数や教員数が減少していくことが考えられ、どのように地域の方々の力を借りて、授業や学校行事等を実施していくかについて協議されました。

令和7年度

県立学校の学校運営協議会を視察しました

NO.1



6/12 県立弘前養護学校

学校経営方針の説明後、授業を参観しました。その後の熟議では、活発に意見交換がなされました。webデザイナーの委員から将来を見据えた学びについての意見が出され、多様な人財の活躍が垣間見えました。また、開会から閉会まで手話通訳士による手話対応も実施されました。



7/30 県立青森第一養護学校

笹森池の環境美化活動や町内会と連携して行ったねぶた運行、元美術教員である委員の指導の下で行われたねぶた制作が紹介されました。また、2グループに分かれて熟議が行われ、今後の取組のアイデアについて、発表がありました。



9/19 県立三戸高等学校

前回、委員から「本校には綱領やポリシーはあるが、もっとわかりやすいものがあればいい」という意見がありました。それを受けて、今回はコピーライターの日下慶太さんを講師に、効果的なキャッチフレーズの作り方を学び、学校のキャッチフレーズを作成しました。

令和7年度CSマイスター等派遣事業プッシュ型派遣（文部科学省） 野辺地町

8月20日（水）野辺地町中央公民館にて、文部科学省CSマイスターの森万喜子氏を講師にお迎えして、コミュニティ・スクールの仕組みを理解し、地域と学校を結びつけることの必要性や重要性を学び、野辺地町における学校・家庭・地域の連携・協働を推進することを目的に、「令和7年度野辺地町コミュニティ・スクールに関する研修会」が開催されました。当日は、小野淳美教育長をはじめ、町内小中高校の管理職、教職員、野辺地町学校運営協議会委員50名が参加しました。

前半は、「地域とともにある学校づくりの推進」について、人口減少等の社会情勢の急激な変化や、不登校児童生徒数の増加、働き方改革などの学校の現状を踏まえ、学校や家庭だけではなく、社会全体でこどもたちを育てていくためには、学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に進め、こどもたちの学びや育ちを豊かにすることが説明され、「熟議」での様々な取組事例が紹介されました。

後半の熟議では、「どんなこどもに育ってほしいか」をテーマに、各グループで話し合いました。“野辺地愛を育てる”をテーマにしたグループは、「野辺地に住む、住み続けてもらうには、野辺地のメリットを知ってもらう。例えばホタテ漁師をゲストティーチャーとして招き、若者向けワークショップを開催したい。」と発表しました。学校ごとに編成されたグループで具体的な取組について話し合われ、大変盛り上がった熟議でした。



令和7年度CSマイスター等派遣事業プッシュ型派遣（文部科学省） 東北町

9月1日（月）東北町コミュニティセンター未来館にて、文部科学省CSマイスターの森万喜子氏を講師にお迎えして、コミュニティ・スクールの仕組みを理解し、地域と学校を結びつけることの重要性や必要性を学び、町における今後の課題について検討し、CSマイスターを通じて今後の運営の充実を図ることを目的に、「令和7年度コミュニティ・スクール研修会」が開催されました。長尾誠治東北町教育長をはじめ、小中学校管理職、PTA会長、学校評議員、教育委員会職員21名が参加しました。

前半の講話では、「地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくり～コミュニティ・スクールとは何か～」をテーマに、森マイスターが現職の校長時に、地域とともにある学校づくりに取り組んだ様々な事例が紹介されました。そして、「こどもたちが今よりも多様で複雑化する社会を心身ともに健康で幸せに生きていくには、地域でこどもを育てていき、私たち大人が知恵を出し合い、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を楽しく、一緒に進めていくことだ」と話されました。後半の熟議では、初めて経験する方が多かったものの、各グループとも様々な立場の方々が積極的に意見交換し、話し合った取組について模造紙にまとめました。



令和7年度CSマイスター等派遣事業プッシュ型派遣（文部科学省） 新郷村



9月11日（木）新郷村教育委員会主催で令和7年度コミュニティ・スクールに係る説明会が開催されました。

文部科学省CSマイスターの高野睦氏を講師にお迎えして、コミュニティ・スクール導入に向け、その仕組みや期待される効果等を共有することを目的に、「みんなで創る新郷村の未来～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を活用してみませんか～」のテーマのもと開催されました。佐藤和友村長をはじめ、横田堅悦副村長、今井裕一教育長、教育委員会職員、新郷小学校・新郷中学校の管理職など17名が参加しました。



講話では、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進する上で、そのアイディアが見える化する重要なツールが熟議である」と説明していただきました。後半は、「新郷村を担う子供たちのために大人ができること」をテーマに熟議を体験しました。参加者からの「コミュニティ・スクールの財源について」や「地域学校協働活動推進員はどんな人が適任か」、「学校の活動が増えるのではないか」などの質問に、高野マイスターが丁寧に答え、最後は、「学校だけでなく、地域の力を借りる仕組みづくりが大切です。」とまとめられました。

令和7年度CSマイスター等派遣事業プッシュ型派遣（文部科学省） 県立木造高等学校



9月24日（水）県立木造高等学校にて、文部科学省CSマイスターの高野睦氏を講師にお迎えして、コミュニティ・スクールの概要や先行事例を学ぶことを目的に、全教職員を対象とした校内研修が開催されました。

最初に、令和7年度教育目標とスクールミッションを確認後、高校の特色と課題を付箋に記入し、グループ内で共有しました。次に、社会に開かれた教育課程の実現の重要性や、新しい時代の高等学校教育の実現に向けた制度改正、コミュニティ・スクールの意義やメリットなどが説明され、「将来を支えることもたちに力をつけるためには、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図り、そのための重要なツールが熟議である」とお話がありました。



また、当課担当者から、県内外の高等学校や特別支援学校のコミュニティ・スクールの特色ある事例が紹介されました。

熟議では、「郷土を誇り、青森の未来を切り拓く人財を育成するためにできることは何か」をテーマに、木造高校の特色が継承され、課題を改善していくための方策を各グループで話し合い、そのためのアクションプランを考えました。

市町村から報告

県内市町村教育委員会が、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けて主催した事業をご紹介します。今回は、おいらせ町教育委員会です。



令和7年度おいらせ町地域学校協働本部研修会

令和7年8月5日（火）においらせ町立みなく館にて、令和7年度おいらせ町地域学校協働本部研修会が、町内小中高教職員や地域学校協働活動推進員、活動ボランティアなどを対象に開催され、20名が参加しました。この研修会は、地域学校協働活動や学校運営協議会の仕組みを理解することや各地域で活動している内容を把握し、一層活性化していくために、町教育委員会が主催したものです。

前半は、岩手県生涯学習振興協会の佐々木勉氏が講師を務め、「地域と学校の持続可能&幸せな未来をつくろう」と題した講義、後半は、参加者が学校区ごとに集まり、現在の活動やこれからの活動について話し合いを行いました。各学校区で地域学校協働活動の種類が異なり、「地域の歴史文化教育」や「小中高連携での地域学校協働活動」、「地域ぐるみでのこどもとの関わり方」など地域の特色に沿った話し合いがなされました。

町教育委員会担当者は、「まずは制度を理解することも必要ですが、活動している方たちの連携や、無理なく活動ができる環境を醸成していくことが大切。」と話していました。今後は、本研修会で話し合われた内容の進捗状況を確認する会合を行い、地域学校協働活動を長期的に無理なく進めていける方法を模索していく予定です。

○各学校区で活発な議論が行われました



○参加者によるアットホームな意見交換

